

共催展

兵庫県立歴史博物館 れきはくサテライトミュージアム ひょうごの風景—震災の街を描く

兵庫県立歴史博物館の出張展示「れきはくサテライトミュージアム」が人と防災未来センター西館2階防災未来ギャラリーへやってきました！

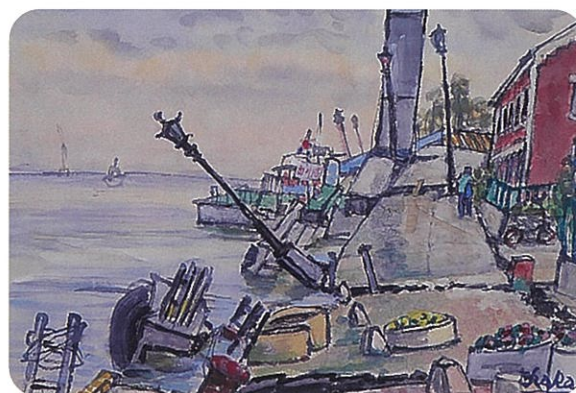
この展示では、当資料室所蔵の絵画作品も複製パネルでご覧いただけます。大震災の爪痕を見つめ、追悼と記録のために絵筆をとった三原康男さん。仕事で通った神戸の街の震災前・後を描いてきた宇佐美重さん。自身の被災体験や新聞報道に取材し、紙芝居に仕立てた桜井健さん。

兵庫県立歴史博物館所蔵作品とあわせ、描く人、それぞれの見た阪神・淡路大震災を紹介しています。

会期は残りわずか（～3月24日）となりますが、ぜひご来場ください。



会場風景



三原康夫《阪神大震災後のメリケン波止場》
資料番号：571-001011

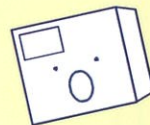
会期：令和6（2024）年2月6日（火）～3月24日（日）月曜休館

時間：9:30～17:30（入館は16:30まで）

会場：人と防災未来センター 西館2階 防災未来ギャラリー

※入館料（大人600円ほか）がかかります

展示で紹介した当資料室収蔵資料に関する出版物や、今回ご紹介できなかった作品を含む資料の現物閲覧については、資料室までお問合せください。



震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな？」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階

TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

URL <https://www.dri.ne.jp/>

開室時間 9:30～17:30

閉室日 毎週月曜日（月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日）

12月29日から1月3日



資料室は無料で
ご利用いただけます



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute



資料室ニュース

震災資料のメッセージ 2023（後期） 「仮設住宅と手芸」を開催しています！

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、6,434人が亡くなりました。また、家屋の被害は全壊・半壊を合わせて249,180棟に及びます。家を失った多くの人が仮設住宅に移り住み、これまでとは異なる生活を始めることになりました。

そこでは、手芸などの活動がさかんに行われます。被災者たちは集会所に集まって、手芸を通じてお互いを支え合い、心の傷を癒やしました。さらに、復旧・復興段階においては、制作した手芸品を販売することが被災者の仕事にもなりました。

今回の展示では、手芸を楽しむ人々の様子がわかる当時の写真を交え、仮設住宅から寄贈された手芸品を紹介します。

場所

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
西館3階（有料ゾーン）

期間

2024年1月30日（火）～2024年6月30日（日）

資料



手芸品（ハサミ入れ）
（資料番号：204-001002）



手芸品 11点
（資料番号：181-001001）



手芸品
（ボランティアの人がつくったおひなさま）
（資料番号：218-002002）

寄贈経緯

今回展示している手芸品は、後世の人びとのために残したいということで、仮設住宅の閉鎖や仮設住宅からの引越しを機に、制作者や持ち主から人と防災未来センターに寄贈されました。

これらの資料は、仮設住宅での生活を支えるささやかな癒やしと楽しみの思い出であり、被災地における相互支援と温かさの象徴といえます。

新着資料紹介

昨年9月から資料室内に設置している震災ビデオ変換ラボ。機器利用に伴うご寄贈ビデオの一部をご紹介します。



三宮へ行くバスを待つ人の行列 (00:04:30頃)
資料番号：575-000001 大山隆三様ご寄贈

◀ タイトル：阪神大震災 1995.1.17 5:46AM
撮影者：山田義孝 撮影年：1995
収録時間：1時間45分

青木（おおぎ）駅近郊に住んでいた娘夫婦の生活を心配し、大阪から訪ねてきた父が撮影したもの。撮影場所は1995年2月4日の阪神青木駅、JR本山駅周辺の様子のほか、倒壊した娘の夫の実家（芦屋）など。

カメラを持つ父は当時79歳。ずいぶん長い時間歩き回っていたそうです。場所情報のテロップや撮影者によるナレーションも入っています。

タイトル：すずらんの花（第2回公演）▶
提供者：香田達也 撮影年：2006
収録時間：22分、14分（抜粋版）



「すずらんの花」公演の様子
（抜粋版 00:05:40頃）
資料番号：579-001003 香田達也様ご寄贈

防災教育活動の一環として、ご寄贈者とともに高校生と大学生で作った「劇団すずらん」。阪神・淡路大震災を経験していない子供たちに向けて、オリジナルの人形劇風紙芝居「すずらんの花」をつくり、公演を行いました。ご寄贈ビデオには、公演記録のほか、和やかな会場風景なども写っています。

「すずらんの花」は、大好きなけんいちお兄ちゃんを震災で失ったのんちゃんと家族の物語。

ご寄贈いただいた震災記録ビデオの資料情報は順次、人と防災未来センター情報検索システム（所蔵資料検索）へ登録しています。

また、インターネット上で視聴いただける所蔵映像も増やしていく予定です。

🔍 所蔵資料検索は <https://www.dri.ne.jp/material/search/>



震災ビデオ変換ラボ 開設中！

ご自身・ご家族の撮影した震災記録ホームビデオ（磁気テープ）*は、資料室内に設置した機器を使用して、ビデオファイルやDVD等へ変換できます（利用条件あり・要予約）。

詳細は <https://www.dri.ne.jp/material/about/donation/video-lab/>

*テレビ放送の録画や販売パッケージの複製にはご利用いただけません。

新着図書



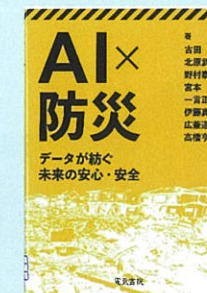
「災害の記憶を解きほぐす～阪神・淡路大震災28年の問い～」
著者：関西学院大学震災の記録プロジェクト／金菱 清（ゼミナール） 編

阪神・淡路大震災でわが子を亡くし、障害を抱え、家や店を失った人々が、学生の問いかけに応じて言葉を紡いだライフストーリー。復興と繁栄を急いだ都市の底に沈んだ記憶をほどこ、当事者の孤独や負の感情、災害の不条理をどう語り継ぐかを再考させる。

防災について学んでみよう！



AIと防災



ペットと一緒に！



子ども文庫



今日から備えよう！



他にもたくさんの新着図書が入荷していますので、ぜひご来室ください。
どなたでも自由に閲覧できます（貸出は一部映像資料のみ）。

